

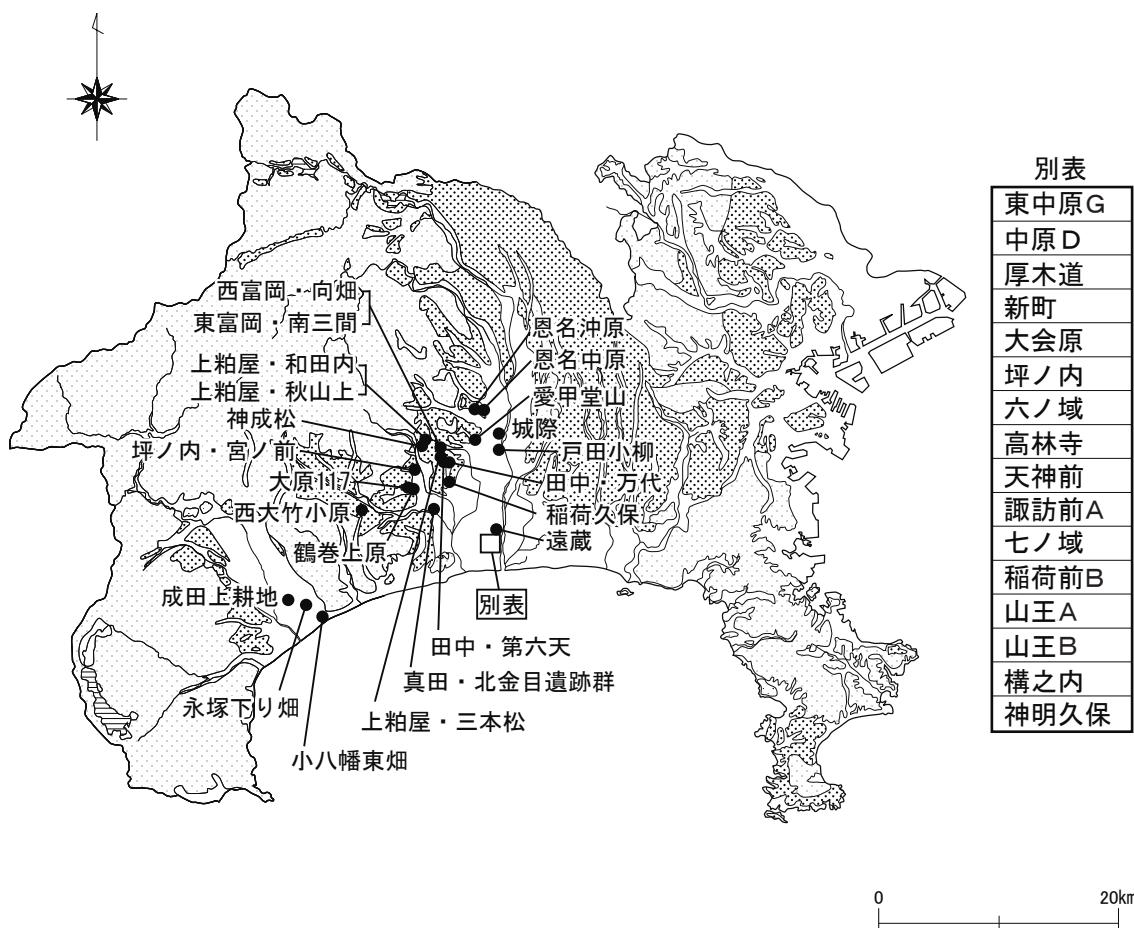
神奈川県における古代の仏教関連遺物（3）

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

はじめに

奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、2年にわたり仏教関連遺物の集成を行ってきた。その目的は、神奈川県内において2000年の「考古学から古代を考える会」による『古代仏教系遺物集成・関東』の集成以降に蓄積された資料の集成と分析である。そのため、2000年から2016年までに刊行された報告書に掲載されている仏教関連遺物の器種別による分類、集成を行った。それにより神奈川県内における多種多様な仏教関連遺物を確認することができた。

今年度は、仏教関連遺物を出土した遺跡を相模川以東、以西、国府域の3エリアに分け、出土する地域、出土する遺構などの傾向と特徴を分析するとともに、遺物の組成と遺跡、遺構との関係を検討しまとめとする。



第1図 仏教関連遺物出土遺跡



第2図 国府域における仏教関連遺物出土遺跡

【相模川以東】

相模川以東は横浜市と川崎市の武藏国エリアと、その他の相模国エリアが存在する。特に2000年以降は武藏国エリアである川崎市の橋郡衙と、相模国エリアでは茅ヶ崎市の下寺尾官衙遺跡群で国指定史跡に向けた調査・整備が進み資料の増加がみられる。相模川以東で集成した遺跡は武藏国エリアにある横浜市2遺跡、川崎市の4遺跡を含む11市町、28遺跡（地域）にのぼる。横須賀市では乗越遺跡の窯址、逗子市3遺跡、藤沢市3遺跡、綾瀬市2遺跡、大和市1遺跡、海老名市2遺跡、茅ヶ崎市は8遺跡（地点）、寒川町2遺跡、相模原市1遺跡である。

まずは特徴的な遺物について触れてみたい。関連遺物のうち最も直接的に仏教を表すのは『寺』や『佛』の文字を含む墨書き土器であると言える。集成ではすべて土師器壺に墨書きされている。墨書きは計17点出土しており、大和市の中ノ原遺跡からは刻書の『寺』が1点出土している。川崎市岡上-4遺跡では13点出土したが、そのうちH-17住居址から『寺』7点、『万寺』1点の8点がまとまって出土している。七堂伽藍の河道出土以外はすべて竪穴住居址からの出土である。藤沢市の南鍛冶山遺跡では『佛』『佛奉』が各1点出土している。そのほか茅ヶ崎市の篠谷地区、大和市中ノ原遺跡8地点からも『寺』が各1点出土している。瓦塔は4遺跡から出土している。七堂伽藍からは土製の瓦塔片2点のほか、陶製の相輪も5点出土している。海老名市の河原口坊中遺跡では土製の瓦塔片10点が集落から出土している。そのほか川崎市の千年-1遺跡

から2点、寒川町の宮山中里遺跡から陶質の露盤と推測される瓦塔片が1点出土している。高盤は須恵器製が大半であるが岡上-4遺跡からは須恵器製2点とともに土師器製が出土している。横須賀市の乘越遺跡の窯から10点出土しており、ここで焼成されていたことが判明している。今後この製品がどのように供給されていったかを追求することも課題の一つになるであろう。仏教関連遺物の金属製品も若干ではあるが増えている。七堂伽藍からは青銅製の軸端と匙などお寺の生活あるいは修行を彷彿させる遺物である。相模原市の田名半在家遺跡G地点からは雲龍文八花鏡の小片が住居址から出土している。

各遺跡から仏教関連遺物を考察するには資料が少ない場合が多い。その中で冒頭にもあげた下寺尾官衙遺跡群に含まれる七堂伽藍が古代寺院址ということもあり資料が集中している。近年調査研究が進み、2000年以降だけでも須恵器の仏鉢型土器や手付瓶や小型壺、小型瓶、長頸壺、獸脚、香炉、灰釉の淨瓶、手付瓶、小型瓶、長頸瓶、ミニチュア長頸瓶、二彩陶器の薬壺や薬壺蓋、小型瓶、火舍、土師器瓦塔、陶製相輪、『太寺』の墨書がある土師器坏、青銅の軸端と匙が出土している。種類も量も豊富である。この遺跡から出土した遺物が、集落から出土する仏教関連遺跡と推測される遺物の指標となることは間違いない。集落遺跡でも人面墨書き土器などが出土している藤沢市の南鍛冶山遺跡の墨書き土器の増加や、海老名市河原口坊中遺跡の瓦塔や綠釉香炉蓋を含む関連遺物の比較的纏まった資料の増加などがみられる。古代寺院との関係性や集落内に村落内寺院が存在した可能性など、興味深い遺跡である。集落遺跡の場合、関連する遺構が発見され総合的に研究をしていくことが課題となろう。

（加藤久美）

相模川以西

相模川以西の地域では仏教関連遺物が出土する遺跡数は少なく、厚木市2遺跡、伊勢原市6遺跡、秦野市3遺跡、小田原市3遺跡である。遺物は単独で出土する傾向があることも特徴としてあげられる。複数の遺物が出土している遺跡としては、伊勢原市では坪ノ内・宮ノ前遺跡（No.16・17）3号溝出土の瓦塔と銅碗、小田原市では永塚下り畠遺跡H1号道状遺構出土の灰釉陶器水瓶と須恵器唾壺？である。

出土する地域としては、前回までの集成の傾向と変わらず、伊勢原市、小田原市が主となっている。小田原市は千代廃寺の存在が古くから知られており、永塚下り畠遺跡の道状遺構からの仏教関連遺物出土は前回までの集成成果に準じるものであった。一方、伊勢原市では前回の集成では経塚や古墳出土の遺物が半数を占めていたが、今回の集成では溝、土坑、竪穴状遺構、切土整地層からの出土が確認された。調査事例の増加に起因していると思われるが、坪ノ内・宮ノ前遺跡では、溝から複数の瓦塔片と銅碗が出土していることが注目される。西富岡・向畠遺跡第2地点切土整地層出土の灰釉陶器把手付瓶や神成松第5地点H17号土坑出土の綠釉陶器小型壺など単体で出土するものも見受けられた。秦野市では、西大竹小原・西大竹尾尻遺跡郡の97A1SI08から墨書き土師器坏『西寺』カが出土しており、今後の資料の増加が望まれる。周辺地域の遺構遺物の出土状況も踏まえて地域の検討をしていく必要がある。

（諏訪間直子）

【国府域】

国府域は、かねてより多くの仏教系遺物が出土することで知られている。2000年の富永氏による集成時においても、「平塚市の推定国府関連遺跡」と「川崎市から横浜市北部」の二箇所に仏教関連遺物出土地の核がある、と指摘している（富永2000）。また、平成15（2003）年に刊行された『平塚市史』においても仏教関連遺物が集成されており、国府域および国府周辺に該当する22遺跡から出土しているとまとめている（田尾2003）。この中で提示している遺跡ごとの仏教関連遺物出土傾向の表に今回の事例を追加したものが第1表である。

いわゆる相模国府域の範囲は、東西約2.1km、南北約800mの長方形の範囲を想定されている。国庁は国府域の東方にあたる六ノ域遺跡から大型掘立柱建物が確認されており、国庁脇殿として想定されている。この想定されている区域の外側からも「曹司」の墨書や、大型掘立柱建物跡などが確認されており、堅穴住居の密集度も含めて武藏国府域のようなもう少し広い国府域を捉えるべきではとの見解もある（江口2014）。よって、今回国府域としたエリアは、市史では国府周辺とした遺跡も国府域として捉え、一覧にまとめた。

集計表を見て注目すべきは瓦塔の出土地がまとまっていることであろう。その他の仏教関連遺物は満遍なく出土している傾向が認められるが、神明久保遺跡にのみ瓦塔が集中して出土している。神明久保遺跡は国庁の南西約1kmに位置し、鉄滓や轍の羽口など鉄生産に関連する遺物が多く出土していることから国衙に付属する鍛冶工房として考えられている。神明久保遺跡から出土する瓦塔の解釈として、市史では鉄生産に關係する工房跡と想定されていることから「神明久保遺跡には金属器生産の工房群が想定されており、国府集落内の仏教信仰、あるいは工人集団と仏教信仰の関わりを示唆するものであろうか」と指摘している（田尾2003）。瓦塔が出土するのは神明久保遺跡の第3・7・8・9地点からで、遺跡の南東寄りを中心とした出土傾向が認められる。8地点では堅穴建物からまとまって出土し、出土した瓦塔は池田分類の大仏類型に相当する（池田1999）。掘立柱建物が密集する地区でもあり、御堂に相当する遺構を再検証する必要があるだろう。鍛冶工房は東に隣接する天神前遺跡でも確認されており、天神前遺跡の鍛冶工房は8世紀初頭～9世紀が主体、神明久保遺跡は9～10世紀が主体となる鍛冶工房として考えられ、一体が連綿と続く鍛冶工房エリアであったことがわかる。瓦塔はこの他、東中原G遺跡からも出土している。東中原G遺跡は国庁より約2km西側に位置し、国府造営時にかかる運河として考えられる幅8mの大溝や、4×4間の大型掘立柱建物が確認されている他、堅穴建物から馬具が出土している集落遺跡である。特に瓦塔以外の仏教関連遺物がみられないことから、位置づけが難しい。

次に国府域全体をみてみると、六ノ域、高林寺、大会原、構之内、諏訪前A、神明久保、天神前、山王A遺跡から比較的集中して出土している傾向にある。特に大会原、六ノ域、高林寺遺跡は南北に隣接する遺跡であり、国庁に最も近いエリアである。まさに六ノ域遺跡は国庁の範囲であり、壺Gが六ノ域から集中して出土している点に注目される。壺Gは細頸の須恵器の壺であるが、その用途は現在のところ3つにまとめられる。一つは、壺Gの生産地が東海であることから東国からの衛士や徴兵された兵士の携帯用の水筒であるとの考え方、「延喜式」などにみられる租庸調の「堅魚煎汁」をいれて都へ運ぶための器という考え方、そして、觀音菩薩像にみられるような仏様の花瓶、という考え方である（三好2016）。都城では運河や一般邸宅からの出土が多く、寺院などから出土は少ないようである。都城で出土した壺Gの中には「九合三夕」の墨書が書かれたものがあり、壺Gが花瓶専用の器ではなく、何か液体をいれる器としての利用があったことを示している。古代寺院などで出土している場合は仏具としての考え方方が適切かもしれないが、国府や郡衙などの

公的施設からの出土事例は仏具というより実用的な利用を検討する方が妥当ではないだろうか。六ノ域が国庁エリアである、ということも裏付けとなろうかと思われる。とはいって、六ノ域では観音像が出土していることから何らかの信仰対象物がおかれた建物の存在は想定される。ただ、軒瓦を含め瓦の出土量が全体的に少なく、軒先を飾っていた建物構造であったとは考えにくい。瓦の出土傾向からみて屋根は部分的、例えば大棟など棟の部分だけ葺いていたような建物であったと推測されよう。

では、国府域から出土する仏教系遺物についてどう考えていいか。2000年の集成時に富永氏は平塚で多量に出土する背景として寺院の存在だけでは説明がつかず、物流が多かったことと仏器を高級什器として使用することが多かったのではと述べている（富永2000）。他国はどうであったのか、武藏を参考にして考えてみたい。

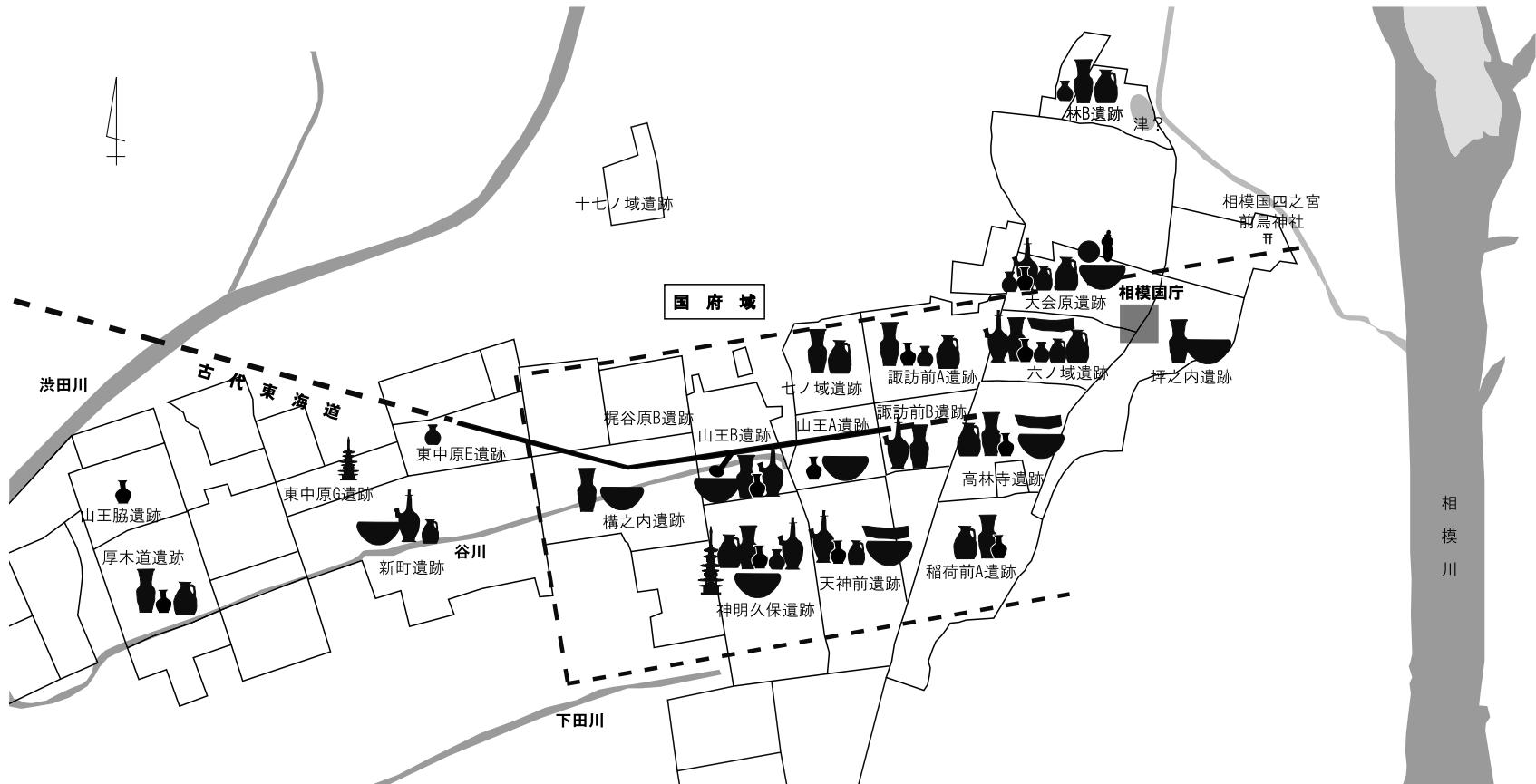
隣国武藏国府域の様相は、相模国府域同様、仏教関連遺物が出土している。武藏国府は、国庁域を中心に立川段丘崖に沿って東西に展開し、東西6.5km、南北最大1.8kmの範囲が想定されている。国庁域の東に隣接して多磨寺がある。創建瓦から8世紀初頭前後創建とされ、国庁域が整備される以前に建立された寺院と考えられている。この他、国庁域の北西1kmのエリアにおいて、仏堂と推定される遺構が確認されている。四面庇の掘立柱建物で、周辺では寺堂の存在を直接示すような墨書き土器などは出土してはいないが、スヌが付着した灯明皿が出土していること、また灰釉陶器の淨瓶が出土していることから仏堂が想定されている（深澤2006）。

この仏堂から南東の地点において瓦塔が出土している。出土したのは掘立柱建物や堅穴建物から出土したもので、瓦塔は池田分類によると上西原類型にあたる。瓦塔安置遺物としては掘立柱建物が想定されている。この他、国庁域西方1.2kmの地点からも出土している。掘立柱建物と堅穴建物から出土している破片で、東郷台類型に分類される。武藏国府域で出土した瓦塔の様相から深澤氏は「国府での瓦塔の造立は、村落での仏教信仰の隆盛と共に通じた流れのなかで出現したもので、同時のネットワークに組み込まれていたと判断できる」とし、国府中心に造立した瓦塔及び瓦塔安置建物は、周辺に工房などがまとまっていることから、本貫地を離れてきた人たちの精神的な支えとなるよう国府のマチの中に営まれた、と述べている。この他、国府域の外で造立された瓦塔はおよび瓦塔安置建物は、僧侶たちによって設置運営されたとし、民衆強化を目指す僧侶の活動拠点の場としていたのではと推測する。

武藏国府事例を参考に相模国府域の事例を考えてみると同様な傾向がみられる。つまり、鍛冶工房などの官営工房エリア近隣もしくは中心で瓦塔が出土していることから、遠く離れた人達の精神的な支え、という考え方方が当てはまるように見える。しかし、工房が主体となる時期と瓦塔の製作年代に少々時期差があり、武藏国府事例のような工房へ集う集団のための信仰の拠り所とするには少々難しい。ただ、神明久保の主体となる時期は9～10世紀ではあるが、隣接する天神前の主体となる時期は8世紀初頭～9世紀と瓦塔製作年代と近しい時期である。神明久保遺跡からは、瓦塔の他、仏教関連遺物が国府周辺遺跡と同様に万遍なくみられることも考えると、なんらかの信仰対象があったことは想定される。瓦塔造立の背景として、工人達の信仰の拠り所の他、新たな開発地への畏怖という側面ももつ。神明久保・天神前一帯が開発＝国府造営のための官営工房を担う工人が先駆的にはいったエリアであり、彼らの信仰対象物がおかれた結果と考えたい。

以上、難駁ではあるが、国府域の様相について述べた。仏教関連遺物としての中には用途の異なるものも想定される可能性を指摘した。国府域では、壺Gなどいわゆる仏具としてすべてみるのではなく、出土した遺跡の性格によって遺物を検討することも必要であろう。

（高橋 香）



第3図 国府城/相模國遺物分布図

神奈川県における古代の仏教関連遺物（3）

第1表 国府域仏教関連遺物集計表

遺跡名		瓦 塔	墨 書 刻 書	佛 鉢 ・ 鉄 鉢 形	水 瓶 ・ 淨 瓶	G 壺	小 型 長 頸 瓶	小 型 手 付 瓶	手 付	短 頸 壺 ・ 蓋	香 炉 ・ 蓋	三 足 盤	綠 釉 小 壺 ・ 小 瓶	綠 釉 壺 ・ 瓶	二 彩 ・ 三 彩	須 惠 器 そ の 他	土 師 器 そ の 他	灰 釉 そ の 他	綠 釉 そ の 他	金 屬 製 品	
国府域		高林寺		1	1		4	7			3	5	3	6		1	1	2	2		3
		下ノ郷廃寺											1	1	1					1	
		六ノ城	3		5	11	17	5	1	6	15	4	5		1	3	2	6	3	1	6
		諫訪前A	1			2	13		2	1	7		2		1		1				
		諫訪前B			1	1															
		稻荷前A	3			1	1			1	3										
		坪ノ内		1		1					4	1					1				
		梶谷原B									1										
		山王A		2			2				3	1				1	1			1	
		山王B		1	1	1	2				2			2						1	
		天神前	1	3	1		1	2			2			1							
		神明久保	42	1	2	3	1	7		3	1		4							1	
		構之内		3	1		5	2			1	1	1		1		2			1	
		大会原		1	1	4	6	2	1	5	4	10			1		1	3	2		
		林B				3			1	1	1										
		厚木道				1	4			1	4	2		2						1	
		新町		1	2			1													
		山王脇					2														
		七ノ城				1				1											
		東中原E							1												
		東中原G	1																		
低地		道半地													1						
		本宿B					1					3									
		十七ノ城										5									
		中原D													1						
		達上ヶ丘				1															
		南原B						1													
		中里E						1													
		御殿D		1																	
台地		諫訪町C		2																	
		根岸B				1															
		王子ノ台			2						1	1									
		真田・北金目	8	10	1	4	4	14	3		5	8	3	1	1		1	5	3	3	
		向原		1	1	1		4				1	1								

※田尾2003一部改変・追記

【参考文献】

- 池田敏宏 1999 「関東地方瓦塔編年と他地域瓦塔編年の比較・検討—関東地方瓦塔屋蓋部編年の検証作業を中心に—」『研究紀要』第7号 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 江口 桂 2014 「第5節 東国における国府景観と道路網」『古代武藏国府の成立と展開』 同成社
- 田尾誠敏 2003 「三 仏教系遺物」『平塚市史』11下別編考古（2） 平塚市博物館市史編さん
- 富永樹之 2000 「神奈川県」『古代仏向系遺物集成・関東』—考古学のあらたなる開拓をめざして— 考古学から古代を考える会
- 平塚市博物館 2010 『検証 相模国府—古代都市復元への挑戦—』 平成21年度 春期特別展
- 深澤靖幸 2006 「国府のなかの寺と堂—武藏國府跡の発掘調査事例から—」『府中市郷土の森博物館紀要』 第19号
- 三好美穂 2016 「東海の瓶」『奈良を掘る』 奈良市教育委員会

第2表 仏教関連遺物出土遺跡一覧

所在地	遺跡名	器種・器形	出土遺構	参考文献
横浜市	権田原遺跡	土師器「鉢(1・2)、須恵器短頸壺(83)	住居址	鈴木重信・古屋紀之ほか2013『権田原遺跡IV』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告46 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財团埋蔵文化財センター
	大原遺跡	須恵器小型壺(39)	住居址	鈴木重信・古屋紀之ほか2011『大原遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告44 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財团埋蔵文化財センター
川崎市	岡上-4遺跡	土師器高盤(96)、須恵器高盤(97・98) 『寺』土師器壺(139～147・149～151)、 『万寺』土師器壺(148)	住居址	吳地英夫・河合英夫ほか2001『神奈川県川崎市麻生区岡上-4 遺跡第2地點発掘調査報告書』岡上-4 遺跡発掘調査団
	千年-1遺跡	土製品瓦塔(116・117)	表採	吉野真由美2003『川崎市高津区千年-1遺跡採集の瓦塔について』川崎市民ミニュージアム紀要第16集
川崎市	千年伊勢山台遺跡	須恵器鉢(3)	遺構外	戸田哲也・服部隆博ほか2005『武藏国橋樹郡衛推定地千年伊勢山台遺跡-第1～8次発掘調査報告書』川崎市教育委員会
	上麻生日光台遺跡	灰釉陶器長頸瓶(40)	住居址	河合英夫・北平朗久ほか2007『川崎市麻生区上麻生日光台遺跡第II地区発掘調査報告書』玉川文化財研究所
横須賀市	乗越遺跡	須恵器高盤(99～108)	塚	中川早苗ほか2012『乘越遺跡』横須賀市文化財調査報告書 横須賀市教育委員会
逗子市	延命寺遺跡	須恵器短頸壺(84)	井戸	松山敬一朗2003『延命寺遺跡(逗子市No. 110) 発掘調査報告書』東国歴史研究所調査研究報告第32集 延命寺遺跡発掘調査団
	蟹田遺跡	須恵器短頸壺(85)	溝状遺構	2007『神奈川県逗子市埋蔵文化財緊急調査報告書5-平成15年度・平成16年度・平成17年度-』逗子市教育委員会
	池子遺跡群	須恵器短頸壺(86)	溝状遺構	松田光太郎・松葉崇ほか2011『池子遺跡群XI』かがわ考古学財団調査報告263 財団法人かがわ考古学財団
藤沢市	南鎌治山遺跡	灰釉陶器取手付瓶(26)、『佛』土師器壺(152)、 須恵器瓶(27)、『佛奉』土師器壺(153)、須恵器淨瓶(21)	住居址	望月芳2014・2016・2017『南鎌治山遺跡発掘調査報告書』第11・12・13卷古代7・8・9 藤沢市教育委員会
	宮原百石原遺跡	施釉陶器水注(18)	住居址	寺田兼方・西野吉論ほか2012『神奈川県藤沢市宮原百石原(No. 236)遺跡発掘調査報告書』湘南考古学研究所
綾瀬市	石原谷遺跡第3地点	土師器獸足(93)	住居址	伊藤甚吉・坪田弘子ほか2005『稻荷台地遺跡群石原谷遺跡第3地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
	早川城山地区遺跡群 No. 146-1遺跡	須恵器鉢(4)	住居址	戸田哲也・吳地英夫ほか2000『早川城山地区遺跡群発掘調査報告書』早川城山地区遺跡群発掘調査団
大和市	早川城山地区遺跡群 No. 13遺跡	灰釉陶器取手付瓶(28)	遺構外	戸田哲也・吳地英夫ほか2000『早川城山地区遺跡群発掘調査報告書』早川城山地区遺跡群発掘調査団
	中ノ原遺跡H地点	『寺』土師器壺(156)	住居址	荻澤太郎・大橋正子ほか2014『中ノ原H地点発掘調査報告書』国際文化財株式会社

神奈川県における古代の仏教関連遺物（3）

所在地	遺跡名	器種 器形	出土遺構	参考文献
海老名市	河原口坊中遺跡 (第1、2、4次調査)	須惠器乳鉢(5～7)、灰釉陶器淨瓶または水瓶(19)、須惠器小型壺(41)、須惠器小型長頸瓶(42～43)、灰釉陶器小型長頸瓶(44)、須惠器小壺(45)、須惠器蓋(46)、綠釉陶器香炉蓋(110)、土製品瓦塔(118～127)、	堅穴建物、溝状遺構、遺構外	飯塚美保・萬橋香ほか2014『河原口坊中遺跡第1次調査』(第3分冊分)かながわ考古学財団 池田治・宮井ほか2015『河原口坊中遺跡第2次調査』(第1分冊)かながわ考古学財団調査報告307 公益財団法人かながわ考古学財団 阿部友寿・阿部友寿・萬橋香ほか2014『河原口坊中遺跡第3次調査』(第1分冊)かながわ考古学財団調査報告300 公益財団法人かながわ考古学財団
	国分尼寺北方遺跡	須惠器蓋G(32)	住居址	渡辺努・吉岡秀範2007『国分尼寺北方遺跡-第27次・28次調査-』日本篆業史研究所報告第69冊 日本篆業史研究所
茅ヶ崎市	七堂伽藍跡	須惠器乳鉢型土器(8)、須惠器乳鉢(9～13)、灰釉陶器淨瓶(23～25)、綠釉陶器瓶(29)、灰釉陶器取手瓶(30～31)、須惠器蓋G(34～37)、須惠器瓶(38)、須惠器小型瓶(60)、須惠器長頸壺(54～58)、灰釉陶器小型長頸瓶(59)、須惠器長頸壺(60)、須惠器小型瓶(61～64・66～67)、灰釉陶器小型瓶(65)、須惠器小型瓶(68)、反釉陶器小型瓶(69～71)、須惠器小型瓶(72～73)、反釉陶器ミニニヨア長頸瓶(74)、反釉陶器小型瓶(75)、二彩陶器裏蓋(76～77)、二彩陶器蓋(78)、二彩陶器小型瓶(79～80)、須惠器短頸壺(89・91)、灰釉陶器短頸壺(92)、須惠器散脚(94～95)、土師器香炉蓋(111)、須惠器高环型香炉(112)、二彩陶器人會(113～115)、土製品瓦塔(128～129)、陶製品相輪(131～135)、青銅製品軸端(136)、青銅製品匙(137)、『太寺』土師器坏(155)	住居址、溝、河道、土器集中遺構、大型掘立柱、堅穴建物、建築・礎石建物間邊遺構、遺構外	小川岳人・飯塚美保ほか2008『小出川河川改修事業関連遺跡群 茅ヶ崎市七堂伽藍(1)・寒川町大曲五反田遺跡』かながわ考古学財団報告224 財團法人かながわ考古学財団 阿部友寿・天野賢一ほか2010『小出川河川改修事業関連遺跡群(2)』かながわ考古学財団調査報告251 財團法人かながわ考古学財団 茅ヶ崎市教育委員会2013『下寺尾官衙遺跡群の調査～下寺尾七堂伽藍跡、高座郡衙の調査～』茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告40
西方A遺跡	須惠器蓋(20・33)		溝	井辺一徳・飯塚美保2007『小出川河川改修事業関連遺跡群 茅ヶ崎市西方A遺跡』かながわ考古学財団報告223 財團法人かながわ考古学財団
下寺尾西方A遺跡	須惠器高盤(109)		住居址	村上吉正・井澤純ほか2003『下寺尾西方A遺跡』かながわ考古学財団報告157 財團法人かながわ考古学財団
茅ヶ崎市	香川・下寺尾遺跡 群北B地区	須惠器淨瓶(22)、灰釉陶器小型蓋(49)、須惠器短頸壺(87～88)	河道下流域、包含層	中村哲也・河合英夫ほか2005『香川・下寺尾遺跡群 北B地区・下寺尾廃寺地区・篠谷地区発掘調査報告書』香川・下寺尾遺跡群発掘調査団
	香川・下寺尾遺跡 群篠谷地区	『寺』土師器坏(154)	堅穴建物	2005『香川・下寺尾遺跡群北B地区・下寺尾地区・篠谷地区発掘調査報告書』香川・下寺尾遺跡群発掘調査団
	上ノ町遺跡	灰釉陶器小瓶(47)	遺構外	宍戸信吾・村上吉正ほか2003『上ノ町遺跡遺跡』かながわ考古学財団調査報告143 財團法人かながわ考古学財団
	円蔵・下ヶ町遺跡	須惠器蓋(48)	住居址	宮下秀之2003『円蔵・下ヶ町遺跡(遺物編)』茅ヶ崎市文化振興財团第7集 財團法人茅ヶ崎市文化振興財团
	鶴嶺八幡宮参道	須惠器短頸壺(90)	住居址	宮下秀之2010『鶴嶺八幡宮参道』茅ヶ崎市文化振興財团調査報告23 財團法人茅ヶ崎市文化振興財团

所在地	遺跡名	器種、器形	出土遺構	参考文献
寒川町	宮山中里遺跡	須惠器鉢(鉢14～15)、灰釉陶器鉢(16)、反釉陶器瓶(82)、陶質品瓦塔(鏡盤)(130)	竪、遺構外	萬橋香・宮井香ほか2016『宮山中里遺跡 III』かなかがわ考古学財团調査報告317 公益財团法人かなかがわ考古学財團・川嶋美佳子ほか2016『宮山中里遺跡 II』かなかがわ考古学財团調査報告314 公益財团法人かなかがわ考古学財團
	倉見川端遺跡	灰釉陶器小形壺(81)	不明遺構	高杉博章・市川正史2015『倉見川端遺跡発掘調査報告書』株式会社アーク・フィールドワークシステム
相模原市	田奈半在家遺跡G地点	須恵器高台付き鉢(伝鉢)(17)、雲龍文八花鏡(138)	住居址	大坪宣雄・杉本靖子2016『相模原市田名半在家遺跡G地点発掘調査報告書』有限公司・吾妻考古学研究所 内川隆志・竹原広展ほか2016『田名半在家遺跡資料調査報告書』相模原市教育委員会
	愛甲堂山遺跡	須恵器鉢鉢(1)	住居址	迫和之・三ツ橋正夫2011『愛甲堂山遺跡』愛甲原小稻葉遺跡発掘調査団
厚木市	恩名中原遺跡第3地点	灰釉陶器水瓶(12)	住居址	林原利明・西本正憲・麻生順司2010『恩名片岸遺跡第2地点 恩名沖原遺跡第7地点 林南遺跡第4地点 長谷清水遺跡第3地点 恩名中原遺跡第3地点 発掘調査報告書』厚木市教育委員会
	恩名中原遺跡第7地点	須恵器短頸瓶(179)	住居址	林原利明・西本正憲・麻生順司2010『恩名片岸遺跡第2地点 恩名沖原遺跡第7地点 林南遺跡第4地点 長谷清水遺跡第3地点 恩名中原遺跡第3地点 発掘調査報告書』厚木市教育委員会
伊勢原市	神成松第5地点、西富岡・向畑遺跡第2地点	綠釉陶器把手付瓶(26)、灰釉陶器把手付瓶(27・28・45)、緑釉陶器小型壺(110)	土坑	野尻義敏・相川薦他2014『神成松第5地点』神奈川県埋蔵文化財調査報告書23 株式会社パスコ
	西富岡・向畑遺跡I	須恵器蓋(83)	切土整地層	水野順敏・吉岡秀範2010『西富岡・向畑遺跡第2地点』(株)日本業業研究所
田中・第六天遺跡第4地点	須恵器小型壺(84)		竪穴状遺構	諏訪間直子・岡稔・菊川泉他2014『西富岡・向畑遺跡 I』神奈川考古学財团調査報告書298 公益財团法人かなかがわ考古学財團
	田中・万代遺跡	須恵器壺？(142)	遺構外	伊藤豊安・立花美2016『田中・第六天遺跡第4地点発掘調査報告書』平成27年度都市計画道路田中笠置線埋蔵文化財業務 伊勢原市
上粕屋・三本松遺跡	須恵器短頸蓋(203)		住居址	恩田勇・井辺一徳2001『田中・万代遺跡』かなかがわ考古学財团調査報告書103
	上粕屋・和田内遺跡 第7次調査	須恵器小型短頸蓋(141)	段切り状遺構 中段部 および中層	田尾誠敏・手島真美・諏訪間伸2001『上粕屋・三本松遺跡第2次調査発掘調査報告書』伊勢原市内遺跡調査団
稻荷久保遺跡第III地点	須恵器長頸蓋(202)		住居址	中村哲也・伊藤豊安他2017『上粕屋・和田内遺跡第7次調査』神奈川埋蔵文化財発掘調査報告書53 株式会社玉川文化財研究所
	坪ノ内・宮ノ前遺跡 (No.16・17)	土製品瓦塔(285～290)、銅製品銅碗(312)	溝状遺構	渡辺務・吉岡秀範2006『稻荷久保遺跡第III地点3・4次調査』日本業業研究所調査報告68 日本業業研究所
秦野市	鶴巻上原遺跡 0702地点	灰釉長頸瓶(88)	溝状遺構	宍戸信吾・宮坂淳一他2000『坪ノ内・宮ノ前遺跡 (No.16・17)』かなかがわ考古学財团調査報告書77 財团法人かなかがわ考古学財團
				齋木秀雄・降矢順子・三ツ橋正夫2011『鶴巻上原遺跡0702地点発掘調査報告書』鎌倉遺跡調査会報告書第66集

所在地	遺跡名	器種、器形	出土遺構	参考文献
秦野市	大原1.1.7遺跡 201003地点	須恵器小型壺(114)	堅穴建物	柳川清彦・高杉博明・市川正史2011『大原1.1.7遺跡201003地点発掘調査報告書』(株)アーク・フィールドワークシステム
	西大竹小原・ 西大竹尾尻遺跡群	『西寺』力 土師器壺(297)	住居址	霜出俊浩2003『西大竹尾尻遺跡群1』 西大竹尾尻遺跡群発掘調査団
小田原市	永塚下り畠遺跡 成田諏訪協遺跡第I地点・ 成田諏訪協遺跡第I地点	灰釉陶器水瓶(10)、須恵器垂壺？(217)	道状遺構	齋木秀雄・降矢順子・田尾誠敏2002・『下曾我遺跡・永塚下り畠遺跡』 鎌倉遺跡調査会・下曾我遺跡発掘調査団
	小八幡東畠遺跡第II地点	須恵器壺(178)	溝状遺構	天野賢一・諏訪間直子・長澤邦夫2001『成田上耕地遺跡第I地点・成田諏訪協遺跡第I地点』かなか考古学財団調査報告書271 財団法人かなか考古学財団
平塚市	須恵器長頸瓶(201)	須恵器長頸瓶(201)	住居址	秋山重美・前川昭彦・佐々木童郎2004『小八幡東畠遺跡第II地点』小田原市文化財調査報告書第124集 玉川文化財研究所
	須恵器鉢(2)、灰釉陶器手付壺(21)、 灰釉陶器把手付短頸壺(29)、須恵器瓶(31・75・111・134)、 灰釉手付瓶(40)、灰釉陶器瓶(把手)(41・44)、 須恵器瓶(把手付)(42～43)、 須恵器蓋(49・63～64・72～73・77・139・181)、 灰釉陶器壺(60・115・129)、 灰釉陶器瓶(11・61・95・108・112～113)、 須恵器鉢多口壺(71)、須恵器長頸瓶(85・87・98・104)、 灰釉陶器瓶小型長頸蓋(89)、灰釉陶器長頸瓶(90・99)、 須恵器蓋(小型壺)(97)、 須恵器短頸壺(136・144・148・174～175・177)、 須恵器蓋(154)、須恵器蓋(短頸瓶蓋？)(156)、 綠釉陶器蓋(159)、灰釉陶器蓋(167)、 不明土製品(脚部分)(?) (172)、須恵器短頸瓶(182)、 反釉陶器短頸瓶(184・213)、須恵器盤(218～219・229)、 土師器盤(220)、須恵器高台付盤(225)、 須恵器高杯？(232)、土師器高杯(237)、 綠釉陶器香炉蓋(241)、土師器火舎(243)、 土製品瓦搭(軸部)(275～276)、 土製品瓦搭(屋蓋部)(277～282・284)、 土製品瓦塔(軸部？)(283)、 『寺』力 土師器壺(291)、『口寺』土師器壺(292)、 『寺』甲斐型土器(293)、 『寺』土師器壺(294～295・298)、 『口寺』土師器壺内面(296)、 土師器壺墨書き土器『寺』(299)、 『口力』土師器壺(300)、 『佛』土師器壺(301・303)、『佛八』土師器壺(302)、 『口力』？土師器壺(304)、銅製品 銅碗(310)、 銅製品 鈴(314～315)	住居址、 井戸址、 溝、 水場状遺構、 不明遺構、 掘立、 土坑、 遺構外	若林勝司・川端清倫・閑根惟亮2001『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書2』第1・2分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査会 若林勝司 紀子・川端清倫他2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書3』第1・2・3分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査報告書3河合英夫・秋山重美他2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書4』平塚市真田・北金目遺跡調査報告書4若林勝司・川端清倫他2006『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書5』第1・2分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査報告書5若林勝司・川端清倫他2008『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書6』第1・2分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査報告書6若林勝司・川端清倫他2010『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書7』第1・2・3・4・5分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査報告書7若林勝司・川端清倫他2010『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書8』第1・2分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査報告書8若林勝司・川端清倫他2012『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書9』第1・3分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査報告書9若林勝司・福田健司他2013『平塚市真田・北金目遺跡調査報告書10』第1・2・3・4分冊 平塚市真田・北金目遺跡調査会	

所在地	遺跡名	器種、器形	出土遺構	参考文献
	真田・北金目遺跡群 大久保遺跡第3地点 新町遺跡第5地点	灰釉陶瓶(11) 須惠器鉢(鉢鉢) (3)	土坑 溝状遺構	中村哲也・伊藤貴安他2009『平塚市真田・北金木遺跡群大久保遺跡第3地 点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
	新町遺跡	灰釉陶器淨瓶(17)	堅穴住居址	北平朗久2000『新町遺跡第5地点発掘調査報告書』新町遺跡調査団
	天神前遺跡第16地点	須惠器鉢(4)、灰釉陶器把手(46～47)、須惠器蓋(188)	住居址、 遺構外	菅沼圭介・佐藤昌彦他2008『新町遺跡発掘調査報告書』平塚市遺跡調査会
	天神前遺跡	灰釉陶器淨瓶(13)、須惠器短頸壺(196) 須惠器鉢(5)、灰釉陶器瓶(153)、 須惠器蓋(157)、灰釉陶器短頸壺(191-193)	確認面までの 出土遺物	吉岡秀範2012『天神前遺跡第16地点』日本窯業史研究所報告第78冊 (株) 日本窯業史研究所 吉岡秀範2013『天神前遺跡第16地点』日本窯業史研究所 所報告第78冊 (株)日本窯業史研究所
	坪ノ内遺跡	須惠器水瓶(7～8)、壺 G (56)	住居址、 土坑、遺構外	菊川英政2009『天神前遺跡 (No.204) 発掘調査報告書第15地点』株式会社 斎藤建設
	坪ノ内遺跡第5地点	須惠器盤(223)	住居址、 遺構外	柏木善治・依田亮一他2009『湘南新道関連遺跡IV』かながわ考古学財団調 査報告243 財団法人かながわ考古学財団
	坪ノ内・六ノ城遺跡	須惠器盤?	遺構外	中嶋由紀子・上原正人2013『坪ノ内遺跡 第5地点』平塚市埋蔵文化財シリ ーズ46 平塚市遺跡調査会
平塚市	構之内遺跡第5地点A地区	灰釉陶器鉢? (6)、灰釉陶器手付瓶(24)、 灰釉陶器小瓶(132)、須惠器瓶(133)、 須惠器高杯(235～236)	溝状遺構、 遺構外	柏木善治・依田亮一他2009『湘南新道関連遺跡IV』かながわ考古学財団調 査報告243 財団法人かながわ考古学財団
	神明久保遺跡	淨瓶もしくは多口瓶注口(14)、灰釉陶器淨瓶(15) 土製品瓦塔(屋蓋部)(262・264～266)、 須惠器高杯(235～236)	堅穴建物、 遺構外	菅沼圭介・上原正人他2010『横之内遺跡発掘調査報告書 第5地点A地区』 平塚市遺跡調査会
	神明久保遺跡第8地点	土製品瓦塔(屋蓋部隔棟付近)(253)、 土製品瓦塔(屋蓋部軒端部)(267)、 土製品瓦塔軸部(斗拱?) (269)、 土製品瓦塔(軸部)(268・270～272)		近野正幸・加藤千恵子2001『神明久保遺跡』かながわ考古学財団 書102 財団法人かながわ考古学財団
	神明久保遺跡第10地点	灰釉陶器淨瓶(16)、須惠器瓶(76-78)、 灰釉陶器長頸瓶(91)、須惠器壺(143)、 灰釉陶器壺(147)、土製品瓦塔(軸部)(247・260)、 土製品瓦塔(屋蓋部)(244-246・251～254・256)、 土製品瓦塔(斗拱部)(249～250-257～259・261)、 土製品瓦塔(屋蓋部?) (255)、 土製品瓦塔(相輪部?) (245)	住居址、 溝、 不明遺構、 遺構外	菅沼圭介・栗山雄輝他2003『神明久保遺跡 第8地点』平塚市埋蔵文化財 シリーズ38 平塚市遺跡調査会
	神明久保遺跡第11地点	土製品瓦塔(248)	遺構外	上原正人・中村高志他2006『神明久保遺跡第10地点』 テイケイトレード 株式会社
		須惠器壺 G (59)	包含層	中村哲也・秋山重美2013『神明久保遺跡第11地点発掘調査報告書』玉川 文化財研究所

神奈川県における古代の仏教関連遺物（3）

所在地	遺跡名	器種 器形	出土遺構	参考文献
		緑釉陶器瓶(水注？) (9)、灰釉陶器淨瓶(20)、須惠器瓶(30・133)、灰釉陶器手付瓶(33・79・81)、須惠器蓋G(57～58・67)、須惠器小型長頸壺(100)、綠釉陶器小瓶(103)、灰釉陶器小型長頸壺(119)、灰釉陶器小型長頸壺(120)、灰釉陶器長小瓶(135)、須惠器小型短頸壺(149)、須惠器蓋(155・160～165)、灰釉陶器短頸壺(169)、須惠器短頸壺(170)、須惠器陶(脚付盤)の脚(171)、須惠器短頸壺(187)、灰釉陶器短頸壺(210)、綠釉陶器香炉蓋？(242)	住居址、溝、井戸、遺構外	依田亮一・高橋香・飯塚美保他2009『湘南新道関連遺跡II』財団法人かなかがわ考古学財団 財団法人かなかがわ考古学財団調査報告242 財団法人かなかがわ考古学財団調査報告243 依田亮一他2009『湘南新道関連遺跡IV』かなかがわ考古学財団調査報告2007『湘南新道関連遺跡III』かなかがわ考古学財団調査報告210 財団法人かなかがわ考古学財団
平塚市 六ノ城・大会原遺跡	六ノ城・大会原遺跡	灰釉陶器小瓶(69) 灰釉陶器瓶(70)、灰釉陶器小型長頸壺(121・123～124)、須惠器短頸壺(200・212)、灰釉陶器短頸壺(209)、須惠器小型短頸壺(211)、綠釉陶器三足盤(226)、須惠器高盤(231)	遺構外	依田亮一・高橋香・飯塚美保他2009『湘南新道関連遺跡II』財団法人かなかがわ考古学財団調査報告242 財団法人かなかがわ考古学財団
平塚市 六ノ城遺跡		灰釉陶器淨瓶(18)、灰釉陶器淨瓶 注口(19)、灰釉陶器手付小瓶(22・23)、灰釉陶器手付瓶(25・32・34・37～39・80)、灰釉陶器把手付長頸瓶(35)、綠釉陶器手付瓶(36)、須惠器蓋G(50～53・62・65～66・68・109)、須惠器壺(74・176・192・194)、灰釉陶器小型長頸壺(92・122)、須惠器小型壺(94・107)、灰釉陶器小瓶(96・101・130～131・137)、須惠器小型長頸瓶(106・118)、須惠器瓶(116～117・125・127～128)、奈良三彩小壺(138)、須惠器小型短頸壺(140・145)、須惠器短頸壺(146・180・186)、須惠器蓋(短頸壺蓋？)(150)、灰釉陶器短頸壺蓋(151～152)、須惠器蓋(166)、奈良三彩蓋(168)、須惠器瓶(脚部)(173)、灰釉陶器短頸壺(195・197・205～207)、須惠器短頸瓶(198～199)、灰釉陶器短頸瓶(208)、綠釉陶器垂壺(214～216)、須惠器盤(221・228)、須惠器高盤？(224)、須惠器高盤(230)、須惠器高环(233)、須惠器高环(高盤の可能性あり)(234)、綠釉陶器香炉蓋(238～240)、銅製品 小仏像(308)、銅製品 鏡(309)、銅製品 鏈(311)、銅製品 銘(316)須惠器蓋(48)	住居址、溝、段切状遺構、土坑、井戸、鋸台、遺構外	依田亮一・飯塚美保・川嶋実佳子他2007『湘南新道関連遺跡I』かなかがわ考古学財団調査報告208 財団法人かなかがわ考古学財団 依田亮一・高橋香・飯塚美保他2009『湘南新道関連遺跡II』財団法人かなかがわ考古学財団 財団法人かなかがわ考古学財団調査報告242 貢献者古学財团 調査報告243 依田亮一他2009『湘南新道関連遺跡III』かなかがわ考古学財団調査報告210 財団法人かなかがわ考古学財団 柏木善治・須藤智夫2007『湘南新道関連遺跡IV』かなかがわ考古学財団調査報告243 財団法人かなかがわ考古学財団調査報告243 依田亮一他2009『湘南新道関連遺跡IV』かなかがわ考古学財団調査報告243 財団法人かなかがわ考古学財団調査報告243 依田亮一他2009『山王A遺跡第4地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ41 川端清倫・栗山雄暉2006『山王A遺跡第4地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ41 跡調査会
平塚市 七ノ城遺跡第8地点	七ノ城遺跡第8地点	須惠器蓋(183)	住居址	伊丹徹・柳川清彦他2014『七ノ城遺跡第8地点発掘調査報告書』神奈川県埋蔵文化財発掘報告書26 ネットワーク・フィールドワークシステム
	稻荷前B遺跡第5地点	須惠器蓋(54)、須惠器短頸壺(183)、須惠器蓋(宝珠カ)須惠器瓶(朱墨書き)(305～307)	住居址、ビット、溝	大野悟・栗山雄暉2005『稻荷前B遺跡第5地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ40 平塚市遺跡調査会

所在地	遺跡名	器種、器形	出土遺構	参考文献
平塚市	諫訪前A遺跡	灰釉陶器長頸壺(壺G)(55)、須恵器小型壺(93・126)、須恵器小型長頸壺(105)	溝、 トレンチ	神奈川県教育委員会2004『神奈川県埋蔵文化財調査報告書46』
	山王A遺跡第5地点	須恵器小型壺(82)、須恵器短頸壺(190)	堅穴状遺構、 井戸	押木弘己2003『山王A遺跡第5地点』平塚市埋蔵文化財調査報告第16集 平塚市教育委員会
	山王A遺跡第4地点	須恵器壺(185)、土師器盤(222)、 須恵器盤カ(227)、佐波理匙(313)	掘立柱建物、 井戸、遺構外	川端清倫・栗山雄輝2006『山王A遺跡第4地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ41 平塚市遺跡調査会
	山王B遺跡第6地点	灰釉陶器瓶(102)	住居址	菅沼圭介・上原正人2012『山王B遺跡第5・6地点』平塚市埋蔵文化財シリーズ35 平塚市遺跡調査会
	山王B遺跡	須恵器長頸瓶(86)	住居址	大野悟・栗山雄輝2001『山王B遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ35 平塚市遺跡調査会
	厚木道遺跡	須恵器蓋(158)	遺構外	大野悟・栗山雄輝2002『厚木道遺跡』平塚市埋蔵文化財シリーズ36 平塚市遺跡調査会
	中原D遺跡第4地点	須恵器短頸瓶(189)	住居址	北平朗久・石川真紀他2014『中原D遺跡第4地点発掘調査報告書』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書18 株式会社玉川文化財研究所
	高林寺遺跡第16地点	須恵器短頸壺(204)	住居址	中村哲也・伊藤貴宏2008『高林寺遺跡第16地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
	東中原G遺跡	土製品瓦塔(273)	遺構外	菅沼圭介・上原正人2013『東中原G遺跡発掘調査報告書第3地点』第一三共株式会社平塚工場に伴う発掘調査V 平塚市遺跡調査会

*訂正：『研究紀要24』47ページ例言7行目全文とする

*第2表における器種・器形は報告書に準ずる
また、第2表器種・器形()内数字について 横浜市・川崎市・逗子市・藤沢市・綾瀬市・大和市・海老名市・茅ヶ崎市・寒川町・相模原市は『研究紀要23』の図版番号に対応

*本文の執筆者は分担毎に担当を明記し、全体の編集は川嶋実佳子が担当した。第1図、第2図は相良英樹が、第2表は西田真由子、川嶋が作成した。